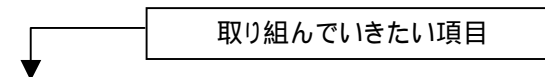


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		「利用者中心」のケアを実践してきたが、グループホームの利用者も年々重度化が増し、個々のケアに時間が獲られ、ともすると業務に向ってしまいがちなところもあり、スタッフ全員でしっかりと利用者のニーズの再確認が必要と思われる。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		開設当初より理念については変わらないが、利用者の重度化に伴い、「利用者中心」のケアの在り方を常に再確認をしていく必要があると思われる。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		家族に協力を依頼するもなかなか協力できる家族ばかりでなく、それが家族の負担にもなりかねないので、利用者のみならず家族への配慮の方法も考えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		特別養護老人ホームと併設なため、施設と常に一緒に思われがちであり、グループホーム独自の関わりを持てるように地域に働きかける方法と工夫を考えていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		今年度から地域の自治会に加入し施設ではなく、地域の一員として出来ることには出来るだけ参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中での認知症相談に応じたり、家族会を通じて相談や研修の依頼があれば、必要に応じて参加協力をしている。		地域貢献については、まだまだ取組みも浅いため、利用者への支援を中心に今後も続けていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、毎回全スタッフで取組み評価の意義、役割についても自分たちのケアについて振り返る機会を作っている		特養と併設のプラス面とマイナス面をしっかりと見極められる自身を持つ、その中で、当ホームの在り方を考えるという大きな課題はまだ残されているが、自己評価をスタッフ全員で取組み何が欠けているかを常に振り返るということは、今後も続けていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年6月に第1回の運営推進介護を実施し内容については、記録に残しスタッフ間にて振り返りを行ない、意見等については、早速対応している。		2ヵ月に1度程度であるが、開催が近いのか議題を決定する際あまり意見が出ず、運営推進会議が雑談になりがちでもう少し整理した会議にしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の介護保険担当者や、包括の担当者と定期的に現状報告をするために訪問をしたり、来園の依頼をし互いに情報交換をしている。また、地域の中で、近隣のグループホームと連携し研修会を実施している。		地域密着という制度の中で、市町村の担当者とは、今後とも情報交換を継続していくことがもっとも必要であるが、どのような形で連携していけばよいのか検討中である。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホームの利用者の家族で、リーガルサポートの会員の方がおり、スタッフの研修会で成年後見人制度については、数回実施している。		今後は、権利擁護や地域福祉権利擁護についても、より一層学ぶ機会を持っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設の特養の研修会にも積極的に参加を促し、認知症高齢者の理解というところから虐待関連法などの制度についても学ぶ機会を出来るだけ作っている。		認知症高齢者介護では、虐待についてとても重要課題になることとあり、虐待ということの意味について、何げない言葉によることもあるということも知識として深めていける研修にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約までの家族に対する不安や疑問の対応や、利用されるご本人の様子など、直接担当スタッフと関わりの機会を作るなど、説明に関しても出来るだけ時間をかけている。</p>	<p>グループホームに対して、過大なイメージを持っている家族も居るので、見学の時や説明する段階でどのようにしたらご理解していただけるのか、今後の課題として取組みたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のご不満や家族の苦情に関しては、御意見箱の設置をしたり(特養と一緒に御意見箱にしている)家族会を通して意見を積極的に取り入れている。</p>	<p>開設以来特別な苦情等は寄せられていないが、ないことに満足せず常にスタッフ間でこれで良いのかと、振り返ることを心がけている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時にはもちろんだが、家族会での報告会や定期的なグループホームたよりを送付したり、個々の面会の状況を把握しながら報告をしている。</p>	<p>毎日面会に見える家族や、月1回の家族とまちまちであり、報告に関しては定期的回数を見直す必要もある。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>設置主体が法人なので、第三者委員に介入していただいたり、御意見箱もグループホームだけでは少人数な為、特養と一緒に御意見箱を利用するなどの配慮をしている。</p>	<p>今後も、意見や苦情が言える様な雰囲気作りに心がけていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、現場スタッフの考えを出来るだけ身近に聞ける配慮をし、定期的会議や、研修会の中での意見を取り入れるよう心がけている。その中での意見は、見直しに反映させたり質の向上へと取り組んでいる。</p>	<p>利用者の重度化に伴い、スタッフの健康管理や、休暇のとり方にも今後配慮が必要と思われる。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者も重度化していることもあり、勤務調整に関しては、ますます柔軟な対応が必要になってきているため、管理者が応援に入ったり、緊急体制時には、早急な勤務調整もしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の変動が開設当初からないことや、スタッフの離職もほとんどない。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者自身が、認知症介護指導者であり県の研修を請負っていることもあり研修生も多く、外部研修には積極的に参加させている。		研修には積極的であり、参加率も多く学びを深めることの大切さも理解しているが、勤務の都合上や体制によりスタッフの希望通りにいかなところに悩みがある。今後の課題である。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成19年10月に北部地域中心に認知症の研修会を開催したり、近隣グループホームと交流を深めている。		北部中心の研修会や開催にあたり、各グループホームから運営委員を選出し、地域も含めての勉強会実施に向けて取組み中である。今後、グループホームだけでなく他事業者にも協力をお願いして、認知症介護について幅の広い学びの研修を計画していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者という立場ではなく一緒にケアする仲間として、今、悩んでいることは何か等フリーの研修会や、個人面接など取り入れている。また、法人として親睦会の旅行計画をしたり、福利厚生にも取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人の理事長も、スタッフと話し合いの場を設けたり親睦会と一緒に参加するなど、スタッフの大切さを常に伝えている。		自身各自が、常に向上心を持って行ける様な配慮というのは非常に難しく、ねぎらいの言葉や、金銭的なことだけでは解決できないと思われる。研修を通して認知症ケアの実践者として今の自分に自信が持てるような試みを企画したり、管理者や運営者という立場ではなく、ホーム全体で一丸となるチームづくりを心がけたい
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族や、ケアマネからの情報を基に、利用する前に不安や困ったことを聴き取りするなどの機会をつくっている。		認知症の症状や、本人のアセスメントについては、何度か面接や訪問をする機会を多く増やしていきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームを希望されるという相談がきたときは、まず、一度見学の依頼をする。家族自身にみていただく、本人に合うか判断していただく。認知症で困ったことや、不安について聴くところから開始している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記にも記入したが、認知症の程度やグループホームでの利用が良いのか等正当に見つめるよう心がけている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人の施設も一緒に見学していただいたり、いきなり入所ではなく、家族と協力をしながらゆっくり泊まれるように持っていく。時には家族にも泊まっていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者中心のケアであるが、ともに暮らす仲間として、できる・やりたいという希望も取り入れて、本当にできるのか、本当にやりたいのかの見極めをしっかりとし、協力しあえるグループホームを目指し実施している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族・スタッフは常にともに暮らす協力できるということを主体的に、ホームの暮らしは一緒に考えていただくことを実施している。		家族への協力依頼をすることで、家族自身が負担になる家族もいるので、個々の家族の状況も把握していく必要がある。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いままでとおり家族本人の関係が良い家族に関しては、何か心配事はないか等時々声掛けをしたり、している。		本人と疎遠になっている家族も居るので、行事等に声掛けをしたり、関係があまりとぎれないようにしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの人には、家族に許可を取り、ホームのお便りを出したり、行事に誘ったりして、関係の継続に力を入れている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症も重度化してきているため、利用者同士の関係を築くことは大変難しい。スタッフが間に入り一緒にコミュニケーションが築けるける支援をしている。		利用者同士の関係は関わり合いも難しくなっており、ついスタッフ対利用者という設定が多くなってしまふ。利用者だからスタッフだからという意識は必要か、重度化が進むグループホームの課題でもある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでもご来園下さいと声をかけるなどの配慮や、行事の招待状の送付により誘ったりとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の毎日の様子や、認知症の状態を常に把握することで、本人の望むことに近づけるように努めている。		認知症が重度化しているため、自身の希望を伝えられることが困難な人が増えてきていることもあり、スタッフ個人の考えになりがちであるが、利用者の暮らしのサポートを継続するためには、利用者をしっかりと観察し、アセスメントできる力をつける様研修等も含め学びを続けたいと思っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を作成したり、家族に協力していただき再アセスメントをするなどをして利用者の暮らしぶりの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ全員で一人の利用者のアセスメントをすることや、センター方式の「私の姿」等を利用して、その人の本来の姿の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の過ごしやすい環境作りや、家族の意向を聞いていく中で、どのような支援が必要か、介護計画の在り方も振り返りながら、総合的に支援できるような介護計画に取り組んでいる。		スタッフが、一方的にあたえてしまいがちなケアであり、家族・本人・スタッフ・その他の環境も含めてもう少しきめ細やかなそれぞれの関わりから、本来のチームケアということを考える必要であると思われる。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	認知症ということもあり、身体上よりも、精神的に変化が生じることが多いため、3ヵ月に1度は見直し家族に同意を得ることを実施しているが、変化が著しい時には、常時家族と話し合いを持ち見直しを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活ぶりや、介護計画に沿っての実践については、個別記録に記入している。また、その他の生活の中で、身体上のことについての記録にも必要に応じて記録し、情報共有に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養と併設であり、年に1度の合同家族会の参加や、行事についても一緒に行なうようにしている。また、看護師については、特養からの協力体制もあり、緊急時の対応など大きな支援が求められている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	あ 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間を通しての定期的ボランティアがあり、開設当時から7年間も来園してくれている。また、運営推進会議では、民生委員の方や自治会長の協力も得られている。その他、地域と連携し、地元社会福祉協議会とも連携し合同防災訓練等も実施している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向は、大切に家族との話し合いの結果、小規模多機能型居宅介護に移行する利用者もいる。		家族、本人との話し合いの結果、これから開設する小規模多機能型居宅介護に移行することになったが、この家族とは、数ヶ月にわたり話し合ってきました。今回をきっかけに、家族の本音を知り、良かったと思っている。このきっかけと家族との話し合いは今後他の家族とも続けていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括の支援センターの担当者とは、運営推進会議を通して協力をいただいている。平成19年度からの実施ということもあり、まだまだ協働というところまでとはいっていないが、担当者が熱心なこともあり、今後情報交換など積極的に実施したい。		今年度作ってきた関係を、今後に生かしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については家族、本人の意向を大切にしているが、特養に来園している嘱託医の力も得ることも出来る。また、協力病院もあり、大きな支援である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の精神科医には受診するが、医師と関係を築くところまではしていない。		認知症の専門医になかなか出会うことができない状況である。今後も探すことはしていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養の看護師の協力と連携をしながら日常の健康管理や医療面での相談援助を得ている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	特養の看護師の協力も得ながら、病院の看護師と連携をとり退院時には、安心して戻れる環境作りに努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去2人ターミナルケアを実践してきた。実行に際しては、本人の意志、家族の協力、医師、ホームと連携し、4者によるケア会議を実施し、どこまでできるのかの見極めを全員ですることが重要である。また、いざとなったときの協力病院体制などが大切であることもマニュアル化している。		終末ケアの難しさと死に対する重さに、常時24時間対応するスタッフの精神的負担を考えると、はたしてグループホームにターミナルケアはありなのかと常に悩むところである。少規模だからできるケアと、死については全く次元が異なりスタッフ自身の覚悟だけでは方針を共有しても解決できないことと感じ、マニュアルはあるが今後の課題である。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記のことは常に考えて、4者、5者どこができなくてもターミナルの実践は難しいという、客観視することも大切である。		同上
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方の環境の変化をしっかりと受け止めるようスタッフはこのことを周知し、移し替えがある場合しばらくの間スタッフによるアフターケアも考えているところである。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録や個人ファイルに関しての保管は、事務所でのファイリングをしている。また、スタッフは採用と同時に個人情報に関する承諾書を記入していただくなど、配慮に努めている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なかなか利用者本人が自身の思いや希望を表すことは難しいことであるが、本人のできる力を確認し本人の意志や、希望をゆっくりと確認できるように努めている。	重度化したことにより、個人個人の意思決定は難しく、スタッフがつい焦ってしまいがちであるが、常にそのときどきの表情を大切にできるよう努力していきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のレベルに合わせて、本人のペースに添った対応に心がけている。	利用者の希望に添うということが「利用者中心」のケアなのかということについて、スタッフ自身が自分のケアのあり方を客観的にみる訓練が今後必要と思われる。それは、重度化から利用者個々の意思表示が難しいことに眼を向けすぎるのではなく、その人の望むことをアセスメントできる力を養う努力が必要と考える。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容に関しては、近所の床屋さんや長年のおつきあいのパーマ屋さんを利用しており、お馴染みさんとして利用している。そのようなお店には、できるだけ連れて行くようにしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒にできる利用者さんも少なくなったが、本人の意志で食への関わりが持てる人には、できることの支援をしている。	本人が自分の意志で手伝ってくれているのか見極めは難しいが、スタッフの希望や押しつけになってしまうように、利用者のできる力を常に見極める力を深められる様にしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒や、たばこは、利用している人がいないが、利用者個々が好むものや、喜んでいただけるものをメニューに取り入れている。菓子や果物は、スーパーで選んでいただくこともしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンに合わせて対応しているが、基本的におむつやリハビリパンツは、夜間のみ対応としている。おむつ及びリハビリパンツの交換については、本人の訴えと定期的に必ず確認交換をする。また、日中については、トイレ誘導とパンツ対応とし、本人が不快にならない様に常に気をつかうよう努めている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的には、個々の希望に合わせた入浴が理想だがなかなか意思表示できる利用者が少ない、また、意思表示出来る利用者は、入浴拒否される方が多いこともあり、ある程度日程を決め、その都度対応している。一日の中で利用者が、一番精神的に落ち着いた時間の設定を心がけて対応している。</p>		<p>利用者自身が入浴対して意思表示できれば、一番心地よい気持ちを感じて欲しいと希望しているが、個々のタイミング難しく時には拒否があり、スタッフ自身悩みどころである。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの身体的、精神的な状態を常に観察していくことで、その日その時どきの表情に合った休息や散歩など取り入れている。</p>		<p>日中寝てしまう利用者には、散歩や、レクなど無理のない取組みも入れていきたい。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活歴の確認や、日頃の生活のなかで、今本人ができることや好きなもの、関心のあるものを探し、できるだけそのことに近づく様に支援している。特に、散歩や、ドライブは好評である。</p>		<p>意思表示や自己決定が困難な利用者に対しては、本当に希望しているのかの判断がつかずつい、スタッフの勝手な判断で実行してしまうこともあるため、一人ひとりの表情を見逃さないよう気をつけたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持を希望される方は現在いないが、買い物等では、できるだけ金銭を扱う機会を作っている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候に応じ、ほとんど毎日屋外に出かけている。地域の利用者がほとんどなので見慣れた風景にふれることを実施している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>併設のデサービスと一緒に遠方に出かけたり、家族と一緒に外出に行く等、限られた家族のみだが実施している。</p>		<p>利用者も重度になり家族自身も実際連れて行けなくなっている。普段行くことの出来ないところの支援とは、ということの意味も考え、行けなくとも一緒に過ごすことの支援が大切なのではないのかと、この項目から家族支援の在り方をもう一度みんなで考えてみたいと思った。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、絵手紙、などあまり本人の意志で出せる人はいない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでもご来園下さいと声をかけるなどの配慮や、暖かい時期には玄関をオープンにしたり、また、隣の畑のおじさんとお茶を飲んだり、野菜をいただいたり、いつでも行き来できる雰囲気作りに心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は一切ない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ鍵をかけることはあっても日中は一切鍵かけはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人ひとりの行動を把握し、認知症であってもその人らしく生活していることを理解し、個人の部屋に入るときの気遣いや、本人に声をかけるなど、その人の暮らしの妨げにならないような配慮に心がけている。また、常に一人ひとりの様子の観察や見守りをする。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々で管理できる力を見極め、持てるものの確認をし、はさみや針などについては、良く話をしてから預かるようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットと委員会や、事故防止委員会、防災委員会などを設置しており、特養と一緒に研修や会議の場をもうけ取り組んでいる。		ヒヤリハットについての知識や、常に危険と背中合わせという意識が実際薄れているところが見受けられるため、研修会を強化していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	特養と一緒に、救急救命法の研修に参加したり、看護課主催の研修に参加している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年12月に近隣福祉施設と合同で、地域の方々にも協力をしていただき防災訓練を実施した。今後も、定期的に取り組む予定である。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所の契約時に緊急時のことや、認知症から起こりうる予測についてのリスクなど、家族と十分な話し合いに心がけている。		それでも起こりうる事故や、急変の過去の事例など家族に話すべきか迷っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝一番の観察、顔の表情はどうか、バイタルは安定しているか、不安に感じたときは特養の看護師に協力依頼している。		認知症であることから訴えられないこともあるので、常に観察を怠らないようにする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬に関しては、家族にも必ず報告をして確認をするようにしている。また、特養の看護師にも協力していただき薬の説明も指導を受けている。		看護師から服薬の指導を受けることで安心感もえられるので今後も継続指導を受けていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便については、出来るだけ薬は使用したくないので、栄養士に献立指導を受けるなど、また、水分や運動とのかねあいについても、看護師から指摘を受けている。		今後も看護師や栄養士からの助言も含め、私たちスタッフが出来ることを学ぶ、利用者の観察を怠らないことの取り組みを続けたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	希望者には、毎食後の歯磨きを実施している。全体的には、就寝前に歯磨き入歯洗浄を行なっている。また、週1回訪問歯科の治療を受けている利用者もおり、口腔衛生のアドバイスも受けることができ、スタッフの良い研修の場にもなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量や、特に水分については、脱水にならないようお茶だけでなく、制限されていない利用者にはジュースや甘い飲み物も飲んでいただき、一日の必要量には気をつけている。		利用者の中には、なかなか水分摂取してくれない方がいるため、一日の中でどのような飲み物が好きなのか、また、果物でとっていただいたりと現在、試行錯誤中の所もある。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルが設定されており、チェック項目に従っている。冬期は特にインフルエンザ予防として、入口での消毒マスク着用など協力依頼をして、外部からの感染を予防している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は、食洗機を利用し殺菌の為に乾燥機にかける等気をつけている。主食材については、特養と一緒に共同搬入していただき、その他についてのみ近くのスーパーに買い物に出かける。全体的に、母体と管理マニュアルは同じであり、定期的な検便や保健所との連携もある。		調理は、スタッフなので衛生面には常に注意が必要である。今後は特養の給食会議にも出席し、衛生管理についても学びたいとの希望もある。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関というイメージがあまりないので、花を飾る、入口にホームだけの郵便ポストを設置するなどといった工夫をしている。		特養母体と併設ということから、どうしても施設の入口という発想が変わらないところがあり、スタッフもこれでいいという諦めも見えてきているので、あえて家庭的という概念にとられず、利用者や訪れてくれる方が、気持ちよく利用してくれるグループホーム作りを目指していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の生活空間は、全体的にオープンで開放感ある環境に努めている。構造自体が鉄筋ということもあり、家庭的な配慮に心がけている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツと畳みや、ソファのスペースも含め個々にあった、空間の利用ができる様になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の中には、仏壇を持ち込んでいる方もおり、自身の家と変わらない環境作りもでき、本人が、できるだけ安心した暮らしができるように配慮している。また、思い出のものなど、持ち込みは自由である。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空間がかなりあり、冬の間は、温度に差があるため、気温に合わせての温度調節にきをつけている。		今の時期には、乾燥に意識して気をつけていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の持っている力をいつまでも継続できるよう、洗濯物干しの高さの配慮や、本人専用の台所用具などを用意して自立心を失わないように取組んでいる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋という意識ができる入口の工夫をしたり、本人の生活の導線を大切に、いつも利用する歩行回路には、躓かないような配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	表の庭や、中庭、裏庭と、いつでも庭に出ることができ、圧迫感のない季節感のある庭造りに努めており、認知症の人がそのときどきの気持ちの転換ができるように工夫している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人の特別養護老人ホームに併設していることから、看護師の協力体制や、夜勤などスタッフ自体が孤立しないという面と、緊急時の医療サポート体制など、単独グループホームが抱えている課題は問題ない、しかし、グループホームが施設という環境になりがちなのところも確かであり、同一敷地内の中でグループホームとしての独自さや、建物の環境からくる配慮など、表庭、中庭、裏庭と環境豊かな自然を利用して、認知症の症状があってもその人らしく暮らせる空間作りを目指しています。また、開設当初からの理念である「利用者中心」のケア、ゆっくり、ゆったり、のんびりとを常に心がけ、けて焦らず利用者が安心して暮らせるお手伝いをさせていただいております。また、地域と連携し、近隣福祉施設との合同の防災訓練に取り組んだり、特養主催の納涼祭に合同参加するなど、地域の中の一員として協働の取組みにも力を入れています。

研修については、認知症高齢者の理解を中心に施設内研修、また、地域での研修にも参加したり、研修会開催にも積極的に取り組んでいます。